

キウイフルーツの台木として活用できる 福岡県在来のシマサルナシ

苗木・花き部

1 背景、目的

本県は全国有数のキウイフルーツ産地です。しかし、生産性が低下した樹から若木への改植が連作障害により計画的に実施できていません。さらに、夏期の高温乾燥による樹勢の低下や若木の枯死が増加しており、生産力の低下が懸念されます。そこで、福岡県在来のシマサルナシに着目し、連作障害および耐乾性に優れる台木として活用できることを明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 連作障害が発生するほ場において、シマサルナシを台樹とした「ヘイワード」樹の枯死はみられません（図1）。
- 2) 連作障害が発生するほ場において、シマサルナシ台「ヘイワード」は、慣行台樹より樹冠面積 1 m^2 あたりに多くの累積収量を期待できます（図2）。
- 3) シマサルナシ台木は、乾燥処理を施しても根の活性が高く維持され、慣行台木より高い耐乾性を持ちます。また、この特性は穂木品種が違って変わることはありません（図3）。
- 4) 台木の違いによる果実品質の差はみられません（データ略）。

3 主要なデータ・画像など

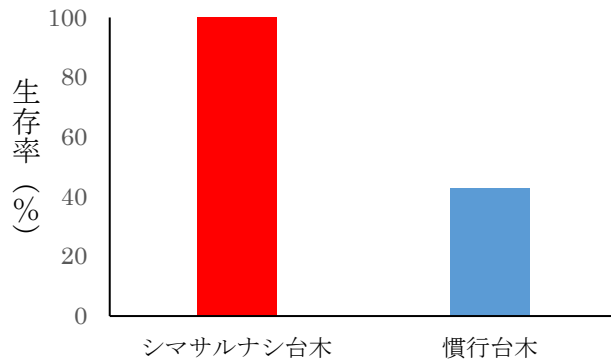


図1 連作障害が発生するほ場におけるシマサルナシ台木の効果

- 注) 1. 連作障害のみられるキウイフルーツほ場における試験。
 2. 台木はすべて実生。慣行台木は「ヘイワード」。各区7本を供試。
 3. 穂木品種は「ヘイワード」。
 4. 平成25年植栽、平成30年の生存率。

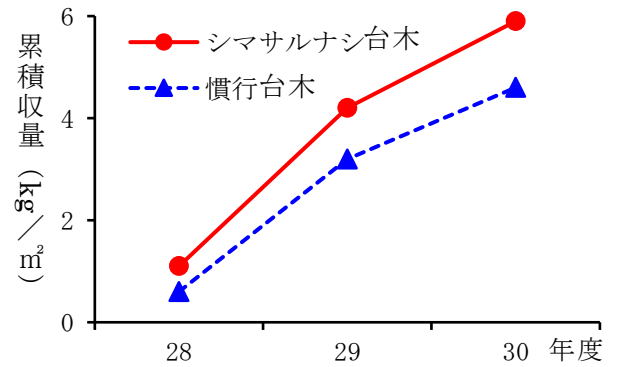


図2 連作障害が発生するほ場におけるシマサルナシ台木の果実収量

- 注) 1. 穂木品種は「ヘイワード」。
 2. 累積収量は結実開始3～5年目の樹冠面積当たりの値。
 3. シマサルナシ台樹は7樹、慣行（ヘイワード）台樹は2樹調査。

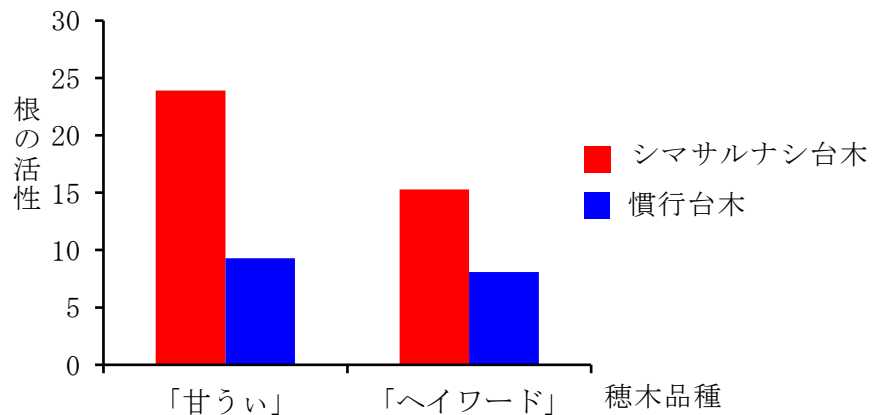


図3 シマサルナシ台木の耐乾性（平成30年）

- 注) ポット苗を4日間無かん水で栽培した後の根の呼吸速度（単位はO₂mg/100g/h）を調査。